

親子読書『つなぐ～熊本の明日へ～』の感想より（2月12日実施）

【1年】「やくそく」

《児童》ぼくは、1人だったら、もっとふあんになるとおもいました。

《お家の方》家族がそばにいてくれることや、普段の水の大切さをわかってほしいです。

【2年】「みんなのどうぶつ園」

《児童》わたしは、じしんがおきて、どうぶつ園がこわれたりしてたとは知らなかったの、どうぶつとかのいのちをたいせつにしたいです。

《お家の方》大きな災害では、身近なペットや家畜なども大変な災害を受けます。小さい物の命も大切にすることを、多く学んでほしいものです。

【3年】「しんさいボランティア」

《児童》だれかがたいへんなときやこまっているときに、ボランティアやお手伝いをして、みんなのために何かを進んでしようと思ったことが、すごいなあと思いました。かんたんなお手伝いでもいいから、私もお手伝いをしようと思いました。

《お家の方》大変なときこそ、皆で協力してできることを進んでやってほしいと思います。自分がされて助かることなど、人の身になって考えるのは大切なことだと思いました。

【4年】「おばあちゃんの ハッピーバースデー」

《児童》おばあちゃんが、たんじょう日を無事むかえられてよかったです。

《お家の方》辛いはずの誕生日を明るくしたのは、人の温かい心ということがよく分かりました。

【5年】「父と母の姿から」

《児童》私もし熊本地震の被害にあっても、そうやってボランティアしてくれる人にまかせると思います。でも、これを読んで、自分にできることを考え行動したいです。

《お家の方》地震があったばかりなのに、人のことを思いやり誰かのために役に立ちたい父と母を見て、子どもも同じように自分が出来ることをやる前向きな姿は、すばらしいと思いました。

【6年】「こわれた おじいちゃんの家」

《児童》もし、地震がおきて自分の家がこわれたらと思いながらこの話を読みました。このおじいさんが、家をなくしても生まれた町に住みたいと思ったことは、ぼくも同じです。ふるさとの町が被害にあっても、ぼくは、ボランティアなどをして助けてあげたいです。

《お家の方》大きな被害があると、いつまたおきるか！?と不安になるとは思います。住み続けた場所への思いを大切に、その場の復興を願うものだと感じました。

【たんぽぽ・ひまわり学級】「こわいおもいのなかで」

《児童》じしんでこわいおもいをしたけど、いろいろな人からたすけてもらいました。

《お家の方》たくさんの人たちの思いが届き元気になってくれたら、とてもうれしく心がやさしくなります。